

県内報道機関 各位

成瀬ダムをストップさせる会は、知事候補予定者に「成瀬ダム事業に関する公開質問状」を郵送し、回答を求めていましたが、このほどすべての回答がそろいましたので、公表いたします。

質問1 成瀬ダムの今後について次の選択肢の中から、公約として掲げるとき、最も近いものをお選びください。

- ① 成瀬ダム事業の必要性は変わっていないので、事業を継続して進める。
- ② 成瀬ダム事業の必要性は低いので、中止の方向で対応する。
- ③ 成瀬ダム事業については疑問があるので、見直しの方向で対応する。
- ④ 成瀬ダム事業については疑問の声が出てきているので、再検討の場を設ける。
- ⑤ わからない。

質問2 成瀬ダム事業に関して付け加えるようなお考えがありましたら、ご自由にお書きください。

(回答到着順)

佐藤正一郎氏 質問1 ①

質問2 (羽後町長在任中は、「雄物川上流改修整備促進期成同盟会」の会長として、同ダムの促進を求めてきました。)

佐竹敬久氏 質問1 ④ (成瀬ダム事業については、以下に述べるように自ら検証したい。再検討の場を設ける。)

質問2 (当該ダムについては、技術面、費用対効果、自然環境、水需給などについて、自ら詳細に検討し、方向付けをしたいと考えます。)

川口博氏 質問1 ④

質問2 (これまで地域住民や村当局の強い要望によって建設計画が決定された事業であると認識していますが、今後については、コストも含めすべての要因を慎重に検討します。)

藤本金治氏 質問1 ②

質問2 (成瀬ダムは国が1530億円、県が260億円の負担となっています。国や県の財政が大変な今、財政の側面からも事業の中止が求められています。今現在、減反が強化され、水田の水の需要は予測よりも大幅に減り、不足とはなっていません。また、水道水の需要予測についても、人口減の現状からすれば大幅に減っております。治水についても、大型のダムを造って防ぐという考えは時代遅れとなっています。そして、環境問題です。東成瀬・栗駒の貴重な自然が破壊されます。きれいな川がなくなります。こういう観点から成瀬ダムの建設には反対です。)

以上

2009年3月23日

成瀬ダムをストップさせる会事務局 熊沢文男 (0182-42-2311)